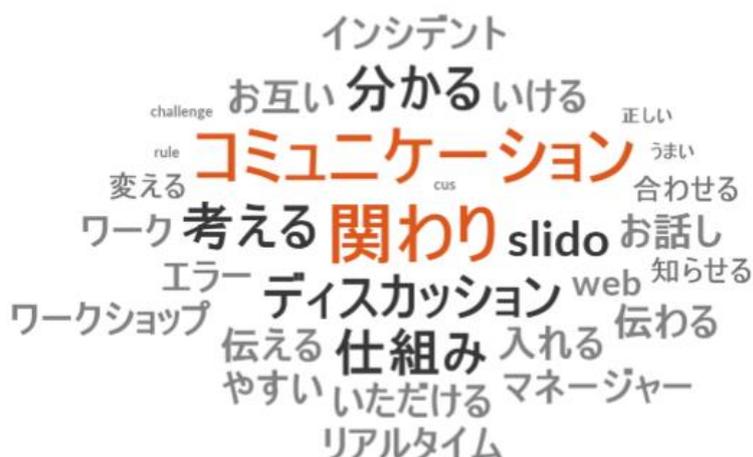


<リスクマネージャー向け TeamSTEPPS 実施報告/アンケート結果>

2024年10月29日、京都大学医学部附属病院リスクマネージャー88名（医師、看護師、管理栄養士、事務、薬剤師、理学療法士、臨床心理士、臨床工学技士）を対象に、TeamSTEPPSに関するWebワークショップを実施しました。

一方向性のWeb会議を双方向性のあるワークショップに転換するために、WebEx上のSlidoの投票機能やWordclouds生成機能を用いて、講師—参加者間、参加者同士が情報共有できる時間を設けました。その後、コミュニケーションのすれ違いのメカニズムに関するレクチャーを行い、WebExのブレイクアウトルーム機能を用いてペアワークを行いました。ペアワークは“Think-pair-share”（考えて、ペアで話し、共有する、という話し合いの方法の1つ）を用い、異なる部署の異なる職種のリスクマネージャー同士が組になり、コミュニケーションが医療安全上の課題になった自分や自分の所属部署での経験を共有しました。

事後アンケート（44名が回答・掲載許可）中、「印象に残ったこと」について尋ねた結果をWordcloudsで示すと下記のようにになりました。



Wordcloudsからは、今回、「コミュニケーション」や「関わり」について書いてくださる方が多かったことがうかがえます。また今回のワークショップ自体について（Slidoというツールを用いたことやディスカッションがあったこと）を印象に残ったと記載される方がいました。

更にコミュニケーションや双方向性のワークショップに関するコメントをみていくと、下記のようなコメントがありました。

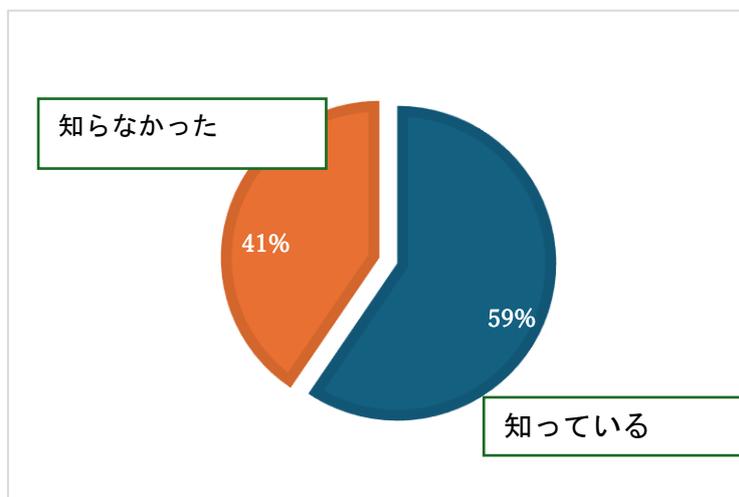
「他部署のスタッフもコミュニケーションエラーによるインシデント防止のために、人に合わせて報告の方法を変えているなど、工夫しておられることがいろいろあるということがわかりました。」

「Slido の投票機能は興味深かったです。」

「違う職種のリスクマネージャーと話すことができてよかった。」

今回のワークショップは、普段あまり関わる機会の少ない他職種・他部署の参加者が共に、コミュニケーションの齟齬によって生じる医療事故やリスク、コミュニケーションの工夫について共有し、考えてみる機会になったのではないかと考えています。

これまで京都大学医学部附属病院では、2023年10月、2024年4月と今回、合計3回 TeamSTEPPS に関連する研修を実施してきており、TeamSTEPPS について知っているリスクマネージャーは半数を超えました。



ワークショップの参加者からは

「2 チャレンジやCUS では発信側が頑張るだけでなく受け手側にも知っておいてもらいたいので、やはり全員で知識や考え方を共有する必要があると思った。」

という意見もあり、TeamSTEPPS のコミュニケーションを知っている方が今後増えていく必要があると考えています。そして、その結果、チーム医療とコミュニケーションの関係についてより自ら考え工夫する、ということに価値がおかれるようになることを期待しています。